

福岡市医師会 定例記者会見資料

ご質問と回答		
NO	ご質問	回答
1	・看護師不足の課題と取組み	2.総論 …スライド資料の中で お伝え致します。
2	・働き方改革開始後現況(残業削減、医療体制維持状況)、 課題と取組み	3.質疑応答 …質疑応答にて お伝え致します。
3	・感染症発生動向 ・新型コロナオミクロン株感染者状況 ・無症状患者の受診状況 ・無症状患者の注意点	

※ご質問に対する回答は定例記者会見時点での内容です。今後の感染状況等により内容が変更になる場合があります。

令和6年6月5日

定例記者会見

令和6年6月5日(水) 13時30分

質疑応答

福岡市医師会 常任理事 平川 勝之

福岡市医師会 常任理事 中山 英樹



報道機関からのご質問

- ・ 働き方改革開始後の現状

1. 急患診療の状況

○福岡市立急患診療センター受診者状況

令和6年4月 … 昨年同月比 90.8%

※混雑状況の確認はされておられません

○出務者状況

診療体制に支障が生じないよう

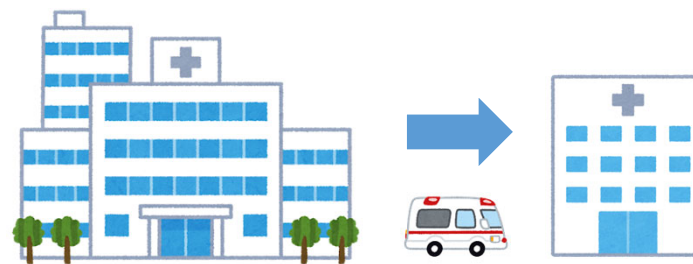
協力機関に出務ご協力をいただいております

2. 令和6年度診療報酬改定

救急患者連携搬送料(新設)

三次救急医療機関等に救急搬送された患者について連携する他の医療機関でも対応が可能と判断する場合に、連携する他の医療機関に看護師等が同乗の上で転院搬送する場合の評価を新設

～ いわゆる下り搬送の促進



3. 市民の皆様へのお願い

- ・ **#8000**（こども医療電話相談事業）
#7119（救急安心センター事業）の利用

- ・ **平日の日中時間帯に**
かかりつけ医への受診

- ・ **救急車の適正利用**
にご協力ください



日本医師会HPを元に作成



4. 水害対策

○平成29年以降に県内で発令された「大雨特別警報」

※内閣府・福岡県HPを元に作成

発令年月	災害名	主な被災地
平成29年7月	平成29年7月九州北部豪雨	朝倉市・東峰村
平成30年7月	平成30年7月豪雨	県内の広い範囲
令和元年8月	令和元年8月の大雨	八女市・久留米市 朝倉市
令和2年7月	令和2年7月豪雨	大牟田市・久留米市
令和3年8月	令和3年8月の大雨	筑後地域・福岡地域南部 筑豊地域南部
令和5年7月	令和5年7月の大雨	筑豊地域・筑後地域北部

○福岡市医師会 大規模災害対策マニュアル（カテゴリーⅡ）策定（令和2年3月）

- 原因が特定され、危機が地域全体に及ぶ地震・**風水害**・大規模自然災害などの災害（カテゴリーⅡ）を想定

5. 水害対策

○家庭での備え

- ①「水害ハザードマップ」で家や地域の水害リスクを確認
- ②避難場所・避難経路の確認
- ③備蓄品・非常時持出品の準備

＜非常時持出品（例）＞

- 食料品
- 医薬品・お薬手帳
- 貴重品・お金
- 眼鏡・コンタクトレンズ
- 衣類
- 日用品 など

- ④家族の安全確認方法を決めておく

○避難時の注意点

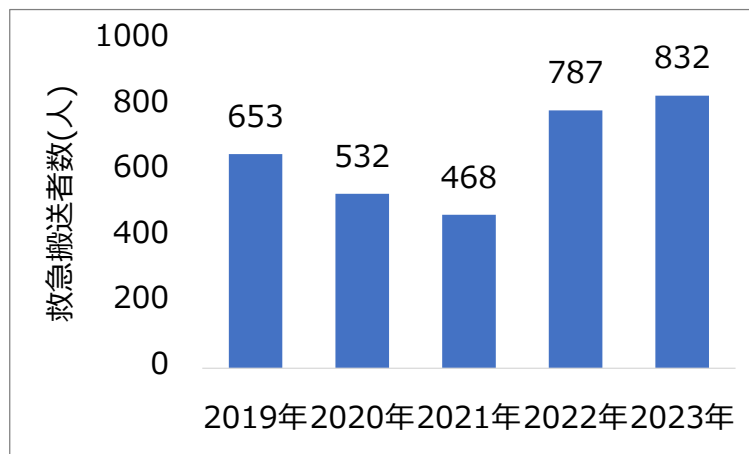
- ①気象情報や河川情報などに注意
- ②自治体から避難指示等が発令されたら早めに避難
- ③避難行動は浸水前に
- ④避難時は隣近所に声をかけて集団で行動
- ⑤車での避難は危険
- ⑥橋や川の近くは危険



※内閣府HPを元に作成

6. 熱中症

○熱中症による救急搬送者数の 経年変化 (福岡市)



○救急搬送の目安

次の症状がある場合

➔ **救急車を要請** + 応急手当を行う

- ・意識障害 (受答えや会話がおかしい)
- ・けいれん
- ・運動障害 (普段通りに歩けないなど)
- ・体が熱い

○熱中症予防のポイント

- ・エアコンなどを使用し、室温を28℃以下に保つ
- ・こまめに水分補給をする
- ・保冷グッズを活用
- ・すだれや遮光カーテンを使用し、直射日光を遮る
- ・涼しい服装をし、外出時には日傘や帽子を使用

熱中症を疑う症状が良くならない場合は、医療機関を受診

※福岡市HPを元に作成

応急手当のポイント...➔

涼しい場所へ移動し、服をゆるめ、安静にしましょう。
クーラー、扇風機、うちわを使い、**体を冷やしましょう。**



クーラーがない場所で体を冷やすには？

- 首やわきの下、太もものつけねを、冷たいおしぼり、保冷剤、氷のう、冷たいペットボトルで冷やしましょう。
(冷蔵庫に、おしぼりを冷やしておきましょう。)
- 冷たい水分をとりましょう。



報道機関からのご質問

- ・ 感染症発生動向について

○福岡市感染症発生報告数（定点報告）

※福岡市HPを元に作成

五類感染症（定点報告）疾病	福岡市（直近5週の定点当たり報告数）					福岡県	全国	警報 レベル	注意報 レベル
	R6年17週 4/22~4/28	R6年18週 4/29~5/5	R6年19週 5/6~5/12	R6年20週 5/13~5/19	R6年21週 5/20~5/26	R6年21週 5/20~5/26	R6年21週 5/20~5/26		
新型コロナウイルス感染症	3.29	4.00	2.61	3.41	3.75	3.10	3.35		
インフルエンザ	0.39	0.20	0.10	0.06	0.16	0.25	0.24	30	10
RSウイルス感染症	2.90	3.00	2.17	2.59	3.21	2.06	1.51		
咽頭結膜熱	0.83	0.62	0.69	1.72	1.10	1.07	0.83	3	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13.34	8.41	10.21	13.90	15.10	8.81	5.03	8	—
感染性胃腸炎	3.52	2.41	2.72	3.59	3.45	5.26	4.94	20	—
水痘	0.41	0.07	0.31	0.17	0.14	0.29	0.22	2	1
手足口病	0.90	1.21	1.66	1.48	2.24	2.53	2.13	5	—
伝染性紅斑	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.06	2	—
突発性発疹	0.45	0.38	0.41	0.52	0.41	0.55	0.32		
ヘルパンギーナ	0.07	0.03	0.14	0.10	0.10	0.14	0.28	6	—
流行性耳下腺炎	0.03	0.07	0.07	0.07	0.03	0.09	0.07	6	3
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.05	1	—
流行性角結膜炎	0.57	0.14	0.14	0.43	0.14	0.15	0.67	8	—
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01		
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01		
マイコプラズマ肺炎	2.00	1.00	2.00	0.50	1.50	0.33	0.28		
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02		

1. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- <特徴等>** 特徴・・・**幼児期～学童期の小児に多く**、家庭や学校、保育施設等の**集団感染が多い**
福岡市の1定点あたり報告数 **15.1**（第21週 5/20～26現在）
全国、福岡県と比較して発生数が多く、**第2週以降**警報レベルが継続
感染経路・・・**飛沫感染、接触感染**で人から人へ感染が伝播
- <症状等>** 潜伏期間・・・**2～5日**
症状・・・突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛、しばし嘔吐を伴う
通常発熱は**3～5日に以内に下がり**、主症状は1週間以内に改善
- <治療・予防>** 治療・・・有効なワクチンがなく、**抗菌薬**での治療が必要
予防・・・感染者との濃厚接触を避けることが重要
体調不良者は出勤・登園・登校を控える
手洗いや手指消毒の励行やマスクの着用

気になる症状がある場合は、かかりつけ医にご相談ください

※国立感染症研究所・福岡市HPを元に作成

2. 劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）

- <特徴等>** 特徴・・・**子供から大人まで広範囲の年齢層に発症**、特に30歳以上の大人に多い
令和6年累積報告数 **935人（福岡県38人）**（2024/5/26時点）
昨年同時期の約2.8倍、令和5年累積報告数941人を上回るペース
感染経路・・・詳しい感染経路は不明だが、**傷口や手術創、鼻やのどの粘膜**から感染
- <症状等>** 初発症状・・・急激な手足の痛み、発熱、筋肉痛、吐き気、嘔吐、下痢、
全身倦怠感、低血圧など
後発症状・・・**発症後数十時間以内**に組織の炎症、肝不全、腎不全、けいれん、
意識消失などの症状が現れ、死に至ることもある **※致死率3割**
- <治療・予防>** 治療・・・**抗菌薬**での治療、壊死部分の切除
予防・・・傷口を清潔に保つ、咳やくしゃみの後や食事の前などには手を洗う

早期診断・早期治療が重要です

気になる症状がある場合は、かかりつけ医にご相談ください

※国立感染症研究所・福岡県HPを元に作成

報道機関からのご質問

- 新型コロナウイルスオミクロン株感染者状況
- 無症状患者の受診状況
- 無症状患者の注意点